

2026.4.25 Sat. 11:00-20:00

Free 入場無料

M MAGAZINE

●Motosumiyoshi●Music●Mate●Meet●Memories

Music Enjoy Club

音楽好きな友の会  
http://ontomo.jp/

後援  
●川崎市中原区  
●「音楽のまち・かわさき」推進協議会  
●公益財団法人 川崎市国際交流協会

第5回元住吉  
ミュージック  
フェスティバル

MMF × 音楽好きな友の会!

たくさんのアーティストが集い、  
ジャズ、クラシック、ロック、ポップスなどの楽曲が一日中、  
生演奏で聴ける手作り音楽祭です。

於：川崎市国際交流センター・ホール  
最寄駅：東急東横線・東急目黒線「元住吉駅」西口徒歩10分  
場所：川崎市中原区木月紙園町 2-2 TEL：044-435-7000

主催 MMF実行委員会 / 音楽好きな友の会  
共催 Moton Club  
後援 中原区「音楽のまち・かわさき」推進協議会 / (公財)川崎市国際交流協会 / (公財)川崎市生涯学習財団 / (公財)かわさき市民活動センター / かわさきFM(79.1MHz) / (公財)現代人形劇センター / 人形劇団ひとみ座  
協力 モトミ・ブレイメン通り商店街振興組合 / モトミ・オズ通り商店街振興組合 / 井田中 / 町屋音楽会 / 本月1日自明会 / 本月2日自明会 / 本月3日自明会 / 本月4日自明会 / 井田共和会第2回会 / 井田共和会第3回会 / 井田共和会第4回会 / ソウラー / ミュージックスクール / 音楽学校 / ミュージックスクール / ムルドラムス / 松野音楽学校 / オンライン教室 / ウチタインテリデザイン / 大塚電化サービス / 橋本 / カンファツリー / Mマガジンサポーター各社

2025年4月現在

お問合せ：mmf.info@ontomo.jp

音楽好きな友の会  
https://ontomo.jp/

2026年2月16日号  
2026年1月16日発行  
(毎月16日発行)  
第132号  
発行・編集人：塚田親一  
制作・編集：藤田順治 / 大場明弘 / 江川公美  
デザイン・表紙写真：岩崎太  
発行：音楽好きな友の会  
川崎市中原区木月2-21-32  
TEL 090-9398-2889  
2026-1-16-800 Printing IT

A Free Magazine that Promotes Regional Revitalization through Music  
Mマガジン

出場決定団体は2月1日より  
決定団体のSNS、音友会HPより公開します。

第5回元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF-2026)への沢山のご応募有難うございました。応募団体数は今回も常数の30組を越え、131名の演奏家の皆様のご応募となっております(12月15日現在)。最終選考決定の出場団体は、2026年2月1日(日)より出場団体のSNS、音友会HPより紹介させていただきますのでご覧願います。

第5回元住吉ミュージック・フェスティバル実行委員会

2026  
2  
February

島田 啓助(しまだ けいすけ):サクソ奏者  
東京都品川区出身。中学でサクスを始め、明治大学入学後にBig Sounds Society Orchestraへ参加。2002年、山野ビッグバンド・ジャズ・コンテストにて最優秀賞および最優秀ソリストを受賞。卒業後はあっぱく部屋、Good Neighbors Big Bandなどで活動し、Two D's、8083ではコンボでも演奏。2025年、創業100周年の節目に実家の(株)島田青果代表取締役社長をしながら「島田青果ジャズオーケストラ」を結成。人との出会いを大切に、音楽をライフワークとして演奏活動している。

2026年  
2月第206回  
はお休みです。

音友レコード倶楽部

レコードコンサートのプログラムは  
・Light music/軽音楽の集い  
& Jazz Date/ジャズの集い  
・持ち寄りタイム/持参レコード/CDを  
楽しむ集いで開催中



連載12 ヴァイオリン王子が贈る "Buono!"なヴァイオリンのお話  
同じ曲なのに違って聴こえる?奏者の個性について

Bouno Naoki

ヴァイオリン奏者 坊野 称央己

同じ楽譜を用い、同じ音程を正確に弾いているはずなのに、ヴァイオリンの演奏は奏者によって驚くほど印象が異なります。クラシック音楽を聴いていて「この人の演奏は心に残る」「上手だけじゃない」「好きじゃない」などと感じることがあるのは、偶然ではないのです。そこには、楽譜には書ききれない演奏者の個性が存在しています。

その大きな要素の一つが、ポウイングにあります。ポウイングというのは、弦楽器の運弓のことをさします。弓を速く動かすのか、ゆっくりと重みかけるのか。弦に対してどの角度で、どの位置で弾くのか。指盤寄りでは弾けばかなり繊細な音色に、駒寄りでは弾けばエッジの効いた音色になります。そのように、音が透明にも濃密にも変化します。さらに、フレーズの始まりをはっきり示すのか、自然に立ち上がらせるのかといった選択にも、奏者の美意識が表れる部分であります。

テンポの扱い方も重要です。全体としては同じ速さに聞こえても、盛り上がる箇所ではほんの少し前に進むか、あるいは

間を取って余韻を強調するかによって、音楽の表情は大きく変わります。そこに加わるピラートの幅や速さ、音を揺らし始めるタイミングも、音色の印象を決定づける要因となります。

例えば有名なヴァイオリン曲を複数の奏者で聴き比べてみると、「語りかけるように歌う演奏」「構造を明晰に示す演奏」など、それぞれ異なる解釈が感じ取れます。それは単なる技術の優劣ではなく、音楽とどう向き合い、何を伝えたいと考えているかの違いがあらわれていると思います。

ヴァイオリンは、人の声に最も近い楽器だと言われることがあります。だからこそ、奏者の感性や人生経験までもが音に映し出されます。同じ曲が何度聴いても新鮮に感じられるのは、そのたびに異なる「語り」を、聴く側が受け取っているからなのかもしれません。

そんなことを頭の片隅に置きながら、ぜひ色々なヴァイオリン奏者の音楽を聴いてもらえたら嬉しく思います。



13歳からヴァイオリンを始め上野学園大学音楽学部を卒業。アーティストサポートイベントに多数出演する他、武蔵小杉・元住吉エリアにて出張レッスンやオンラインレッスンも展開中。

Violinist・坊野称央己  
Official Site  
naokibono-violin.com



連載07 世界旅と音楽～経験を音にする  
世界一周クルーズへ

みなさんこんにちは、ギタリストYuta Tanakaです。今回はマレーシアについて書きましたが、今日は一昨年に4か月ほど世界一周のクルーズ船で専属ミュージシャンとして乗船した時の話をしたいと思います。乗船前はいろいろ準備があり、船員として乗船するための講習を受けたり、予防接種や健康診断をしたりしました。

2023年7月末からクルーズは始まりましたがまずは2週間弱の日本一周クルーズからはじまりました。演奏は毎日3～5ステージあり4ヶ月ほどのクルーズ中休みは1日だけだったと思います。船上は

インターネットもないので(当時購入すれば使えましたが)毎日音楽と向き合せて、練習もできて幸せな時間でした。

よく船酔いの事を聞かれますが船酔いする人も慣れるそうです。自分は船酔いは大丈夫でしたが、夜お酒を飲んで朝起きるとそんな飲んでないのに残って

このクルーズ中に船内で録音してアルバムを作ろうと思っていました。

日々作曲活動する旅の途中、同じ船内で演奏していたヴァイオリニストと組む事になりこれが新たなアイデアとなりました。

今回はそのアルバムの話しをしたいと思います、旅はつづく。

ギタリスト:Yuta Tanaka

感じがしました笑(それも慣れましたが) 寄港地も降りれる時は降りれるので観光したりもできて楽しかったです。

食事3食ついていて、蕎麦やうどんなど食やカレー、パスタなど様々なチヨイスがありました。海がすきなのでデッキに出て眺める海は本最高でした。



▲出港前の横浜・大規模の様子

川崎市国際交流センター

第31回外国人市民による  
日本語スピーチコンテスト(入場無料)

川崎で生活しながら、日本語を学んだり、仕事をしている外国人の皆さんが、日本に来て体験したことや考えたことなどを発表します。審査の合間には、ボリビアの民族舞踊とフォルクローレの演奏があります。

▲昨年の出場者

●日時:2026年2月7日(土)  
スピーチ 13:00~15:30(自由参加)  
交流会 15:30~16:30(要申込)

●ゲスト:グループ・パトウフ & ロス・カルナス

●主催:川崎市国際交流センター (指定管理者:公益財団法人川崎市国際交流協会)

●お問い合わせ  
公益財団法人川崎市国際交流協会  
TEL 044-435-7000 E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp  
ホームページ https://www.kian.or.jp/

川崎市生涯学習プラザ

第157回ランチタイム・ロビーコンサート

出演:恩田優美子/ピアノ  
1973年東京都生まれ。幼少より音楽を幅広く学ぶ。第2回グリーン音楽フェスティバル芸術部門成年の部にて第3位入賞。現在、首都圏を中心にコンサート・ライブハウスに出演。作編曲家、ミュージックライターとしても活躍。

●予定曲目  
・子供の情景作品15より抜粋(シューマン)  
・ワルツ、マズルカ各曲(ショパン)

●日時:2026年2月12日(木曜日)  
12:00開場/12:10開演/12:40終演予定

●料金:無料

●場所:川崎市生涯学習プラザ・1Fロビー

●お問い合わせ  
(公財)川崎市生涯学習財団 総務室 総務係 ロビーコンサート担当  
TEL 044-733-5560 E-mail:concert@kpal.or.jp  
川崎市中原区今井南町28-41  
ホームページ https://kpal.or.jp/

音楽好きな友の会(音友会)

MISIAが1998年2月にデビュー

今や飛ぶ鳥を落とす勢いのミュージシャン、MISIA。彼女は1998年2月21日シングル「つつみ込むように…」でBMG JAPANよりデビューしました。TVドラマのヒット曲が多く『やまとなでしこ』主題歌「Everything」、『JIN-仁-』主題歌「逢いたくていま」、『義母と娘のブルース』主題歌「アイノカタチ」など長年に渡りさまざまなヒット曲を打ち出してきました。5オクターブの音域を持ち、デビュー前よりクラブ・シーンで話題を呼んでいたことから、先行発売されたアナログ盤は即日完売になったという事です。彼女のデビューを機に、日本におけるR&Bカルチャーは広がりを見せるようになりました。以前、彼女がリスペクトしていたシンガーはメアリー・J・ブライジ、エリカ・パドワウをしてリス・ライト。みんな歌声にソウルを感じ取るヴォーカリスト達です。



▲「SOUL QUEST GRAND FINALE 2012」横濱アリーナ公演

Mマガジン表紙写真撮影ぼや記帳

寒い...もうすぐ冬至...まだ2時だというのに、もう陽が傾いて夕方のような。光線がきつ、某公園で光の良い場所を求めて転々と撮影場所を変える。散歩日和ではあるのに、日向はまぶしく、日陰は暗い。もう少し雲がほしかったな。ピンテージサックス(呼称間違っていたらすみません)も、西陽にキラキラせず素敵な色。格好良く、快くポーズしてくれた島田氏に感謝。

音友レコード倶楽部PR動画!

「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

常連の参加者との共同製作です。撮影・編集はギター奏者の永瀬晋が担当。新規参加の前に、ぜひご覧ください。YouTube配信中。

連載18 オカリナに誘われて好きなのに怖い1

私が中学生になって、クラリネットを始めて、夏のコンクールに初めて出た時、大きなホールで沢山のお客様の前で演奏するのがすごく楽しく感じたのが、強烈に思い出に残っています。私はこの時演奏する楽しさを存分に味わいました。でも、それ以降、ステージの上はただただ緊張で、手も足も震えて私こんなに緊張して何やってるんだろうと思っていました。これって、どうしてなのかな?と最近考えるんです。今はそんな怖い思いは全くなくて、お客様は沢山来て下さった方が俄然テンションが上がります。大好きな事をするのに、あの時の心の中は恐怖でいっぱいというのが、不思議です。思いついたのは、人前に立つと私をみんなが査定してると思ってたのかもしれないという事。それは、コンサートを聴きに行った時の以前の私の頭の中です。特に短大時代は酷かった。

そんな私が変わったのは、アドリブの講座に出会ったことが大きいです。即興で演奏する講座では楽譜を使いません。セッション形式で演奏するときは、テーマを担当すると知っている曲を記憶を頼りに演奏したりします。途中からわからなくなったら、思い出すところまで即興で繋いだり。今まで、楽譜通りに吹くこと

が正解だった私には、テーマを吹いてと言われるのが最初恐怖でした。でも、他の人の演奏を聴いていくうちに、すごくオリジナリティーが出てるのが面白くなりました。その講座ではみんなの良いところを話します。これって、とっても大事で、私は影響を受けやすいので、すっかり良い所を探す思考に変わってしまいました。今まで、楽譜と合ってるかを重視していた生活から、ちょっとくらい、たまには大分楽譜と離れてしまっても、即興音楽としてそれはとっても魅力的な音楽。その人の音楽が聴けるそんな風に思えます。そして良いところ探しをしていると、自分が嬉しくなる。それが、きっと人前で演奏する楽しさにつながるのかもしれない。だって、大好きな音楽でみんなを喜ばせられたら、私は幸せだから



小棚木 恵美子



小棚木恵美子プロフィール  
洗足学園短期大学音楽科卒業。オカリナ講師。「思い通りに演奏できる!オカリナ上達のポイント50」監修出版。神奈川県・東京を中心に演奏活動しています。  
【催事の予約受付 090-2436-5985 花】  
●毎月開催「オカリナカフェ」(オカリナ体験・レッスン)  
・日時:第2・4週(水)、(金) ①14:00 ②15:00  
・会場:コーヒースポット「ライフ」(武蔵中原駅近く)  
一度どんな感じか吹いてみたいという体験でも、長くオカリナ吹いているけど、今更聞けないお悩み事もお気軽にご相談ください  
Instagramも是非のぞいてください  
https://www.instagram.com/emiko55395/

Instagram @emiko55395



連載35 脱線ニューヨーク滞在記 思い出し寄り道編の寄り道 ニューオリンズ

Demura Katsuki 出村 克明

前号ではニューオリンズのブードゥー教祭りがハイチのフランソワ・デュバリエと云うブードゥー教の司祭でもあった大統領がゾンビの逸話を利用して恐怖政治を行っていた話でした。その1960年代、アメリカ合衆国はジョン・F・ケネディが大統領に。1962年のキューバ危機を境にアメリカ合衆国とソビエト連邦は冷戦真っ只中、アメリカはカリブ海に浮かぶ諸国が共産主義に拡大していくのを懸念し、ハイチに対して民主主義や人道的立場から経済的支援は停止しましたが縮小した軍隊は残っていたようす。

西アフリカからハイチを経てニューオリンズへ渡ったブードゥーは奴隷制度下でキリスト教カトリックと集まり発展しました。フランス植民地時代だったこともあって神様の名前はフランス名で、と前号でも話しましたが時を経て観光のアイテムにもなり、それが隠れキリシタンならぬ隠れブードゥー(ヨルバ)の術なのか、それで儀式で使う太鼓も許されていたかもしれません(前号で掲載したブードゥー教の儀式で太鼓を叩いている写真)。ルイ・アームストロング・パークへ行ったら時、多分ブードゥー教と思われる集会でしょうが、古びたコンガを叩く老人と二十人くらいの女性が白い衣装を纏い頭も白い布を巻いて輪になって踊っているのを目にしました。熱量は全く感じなく、おしゃべりしながら集まっている感じで太鼓も触っていない感じでした。公園の隣はアフリカ系の人達が多く住むコンゴスクエアでその信者の人達が木立も多く広々としてい

るのでのんびりとブードゥーにかこつけて井戸端会議でも来たのでしょうか。見ているのは僕だけで、彼らの生活の一部を垣間見ている様な違和感を覚え離れました。この公園にはトランペットとハンカチを手にしたルイ・アームストロングの大きな銅像が立っていて、マヘリア・ジャクソン・シアターもこの公園の中に在りました。そしてブードゥーと云えばミュージシャン、ニューオリンズで生まれ育ち同地を拠点に活動し、ニューオリンズ音楽文化の象徴となっている ドクタージョン。彼はブルースの重鎮とも言われていますが、ブードゥーをニューオリンズの土着的な精神文化として深く関わり、彼の音楽性や神秘的なキャラクターに影響しています。Dr.Johnと云う名前も実



▲ルイ・アームストロング公園の銅像



▲Dr.John/Gris Gris



▲ニューオリンズ コンゴスクエア



▲DR. JOHN / THE NIGHT TRIPPER

特別寄稿 Conversations 音友レコード倶楽部・音楽談議

映画館で見る「聖林ホテル」(1937)

渋谷に『シネマヴェーラ』という映画館がある。主に邦画、洋画の旧作を上映する名画座である。2週間〜1か月単位で特集が組まれ、今ではほぼ見るのできない作品がかかる貴重な映画館である。昨年12月に『ミュージカル・ミュージカル』と題して1930年代〜40年代のハリウッド・ミュージカル24本の特集があった。「トップハット」「青春一座」「雨に唄えば」「巴里のアメリカ人」といったフレッド・アステア&ジンジャー・ロジャースをはじめジュディ・ガーランドやジーン・ケリーらの主演作品が上映され、好きな方にはたまらないラインナップであった。筆者もミュージカル映画好きのひとりとしてこのラインナップから目に留まった作品を見に出かけた。「聖林ホテル」(1937、原題 Hollywood Hotel、写真①)である。主演はディック・パウエル、ローズマリー・レイン、ローラ・レイン、ヒュー・ハーバート。監督は多くのミュージカル映画を演出し、また振付師でもあるバスビー・パークレー。またこの映画にはスイングの王様、ベニー・グッドマン楽団が出演しており、実はグッドマン楽団見事に目に出かけたのだ。

当時、『ハリウッド・ホテル』というラジオ番組があり、実際にあるハリウッド・ホテルのオーケストラ・ルームから毎週放送

していたそうで、この番組を題材にした内幕コメディなのが、この映画の見どころは筆者的にはベニー・グッドマン楽団の演奏シーンである。劇中、グッドマン楽団がオーケストラ・ルームに出演することになりそのリハーサルシーンで、あの「シング・シング・シング」が演奏される(写真②③)。本映画のアメリカでの公開は1937(昭和12)年12月20日。時まさにスイング時代であり、グッドマン楽団は全米No.1のスイング・バンドとして絶大な人気を得ていたところである。'37年ということは最年長のグッドマンでも28歳、他メンバーも20代前半と皆若く、ドラムのジーン・クルーバ、トランペットのハリー・ジェームス、ピアノのディ・ウィルソン、ヴァイブラフォン、ライオネル・ハンプトンらの火の出るような演奏が展開されるのだ。アメリカ本国での公開からほぼ1か月後の'38年1月16日にはあの有名なカーネギーホ



▲② シング・シング・シング演奏シーン

ル・コンサートが行われており、この「シング・シング・シング」はコンサートのクライマックスで演奏された曲としても知られている。日本での公開は1939(昭和14)年。以後戦後になっても日本ではリバイバル上映は行なわれておらず、テレビでも放映された記録は見つからない。よって映画館での上映はおよそ90年ぶりということになる。

1930年代後半から'40年代にかけてのスイング時代には多くのスイング・バンドが映画に出演しており、当時のSPレコードより映画フィルムのほうがサウンドが良い場合も多く、是非他の作品も上映してほしい。



▲① メインタイトル



▲③ 劇中のベニー・グッドマン

特別寄稿 Conversations 音楽談議 / オーディオ談議

前タイ国王である故プミポン国王と音楽

今回は故プミポン国王と音楽について書きます。前タイ国王のプミポン国王は実はウィーン国立音楽大学から博士号を授与されていて49の楽曲を残しています。ジャズ風の作品がほとんどで前国王自身もピアノやトランペット、サクソフ、クラリネットを巧みに演奏しました。プミポン国王はタイ国民から大きな尊敬を集め、それゆえジャズもタイの人々には馴染み深くとても愛されています。私自身もプミポン国王の曲を演奏する機会是非常に多く、参加したバンコク・プロ・ムジカの国王の作品集を演奏するコンサートツアーでアセアン諸国の他、韓国やヨーロッパ、日本でも東京と大阪で演奏しました。プミポン国王の曲は基本ピアノや歌のための曲が多く、それらの曲を弦楽合奏と木管楽器のための版に編曲されたのが前国王の枢密顧問で音楽家のアサニー・プラモート氏で、アサニー氏の指揮の

元、世界ツアーがタイ文化庁の主催で行われました。すごくラッキーだったのはやはりアサニー氏による主導でプミポン国王の作品を世界で紹介するという事でタイの文化庁も力を入れていて、どの国に行っても最高級ホテルにタイの税金で宿泊できた事です。タイ国民じゃないのに(笑)東京と大阪では帝国ホテルに宿泊しました。もう絶対自腹では泊まれないホテルばかりでした。各国のタイ大使が豪華な歓迎パーティーが開かれ、多くの大使に私のことを知りただけました(メンバーで外国人は私と前号で書いたイギリス人ヴァイオリニストのマイケル氏だけだったので余計に)。リハーサルはアサニー氏の家で行われ、練



▲アサニー氏とバンコク・プロ・ムジカ

連載09 サックスと私 YouTubeのこと

YouTubeを始めて三年が経ちました。毎週アップするストリートパフォーマンスのショートと一曲丸々の動画は、既に300コンテンツを超えました。今までで最も再生されたショートは「千の風になって」の100000回、動画の方は「栄光の架け橋」の59000回で、どちらも約三年かかっている回数です。

ところが12月の初めにアップしたクリスマス・イブのショートが3週間で50万回を超えました!更に動画でアップした「雪の華」が2週間で52000回の再生を記録し、それに伴い殆ど増えなかった登録人数が1000人近く増えました。これまで毎週コツコツとアップしてきたのが一挙に花開いた感じなんで

す。毎日増える数字に一喜一憂しています。有名なミュージシャンは一億回とか行きますが、そんなのは夢の話。素人の僕はこんな感じで少しずつの努力をしています。いつかは登録人数も10000人を突破する事を夢に見ながら



世界の中から集まる人々を魅了するストリートサクソフ〜「雪の...」  
2025年11月30日・公開日

毎週末、路上でのストリートライブをやっています。これをご覧の皆様、是非僕の動画をご覧ください。そしてもし良ければ、視聴者登録、いいね、コメントなどいただけるとありがたいです。



銀座にクリスマスを届けるストリートサクソフ 本編もどうぞ...  
2025年12月6日・公開日

連載93 Course: Addicted to Guitar ブルースセッション ペンタ+ブルーノートb5 その2

Nagase Susumu

ブルースロックピニョ人:永瀬 晋

いつもお世話になっております。今回もブルースセッション対策でマイナーペンタを掘り下げていきましょう!前回はマイナーペンタトリック(ブルーノートスケール)+b5を「b5音を通過をメイン」に使うという方法をご紹介させていただきました。皆様実際に使っていた感じいかがでしたでしょうか。この手法だけでもマイナーペンタオンリーよりもかなりバリエーションは作れると思いますが、今回は別のアプローチ「露骨にb5で伸ばす」という手法のご紹介。早速譜例です。KeyはA7。フレーズの入りや執拗な繰返しなど、b5を弾く頻度をかなり増やしています。音

響きの言い方を変えると、現代的なジャズで使われる「アウト」感が出てくるとも言えますね。聴いた感じかなり耳に引っ掛かるフレーズになりますが、個性的な音を求める方などには個人的にこちらの方がオススメです。現代的な音楽ですと、メジャーキーでもマイナーキーでも(メジャーキーでは同じ音



ソウリーヴ・ミュージック・スクール SouleaveMusic School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 レッソンは8:00〜22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB 全国のミュージシャン、および音楽活動に関わる人をネットワークし、そして演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動の後押し、が目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。演奏者の方で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画も募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフも募集中)